

ベルリン 2 日目

ねこ屋敷主人・立花先生のベルリン歴史散歩

翌日、調査先に向かう電車の中でも、気になるのはホーネッカーの山荘ツーリストインフォメーションに聞けばわかるのだろうか。

加えて、前日夜にテレビで放映した番組、ソ連軍のベルリンへの進行の様子、いまだに不発弾が発見される地域のことスターリンの孫も出演していてびっくり。

斎田君に電話して、先生に伝えてとお願いしたけれど、先生はみてくれたかしら……
開発中の核爆弾を狙ってスターリンがベルリンに進行したとテレビではいっていたけれど、本当かしら？先生はこの意見をどうお考えだろう……

（あとでお伺いしたら「それはない」、とぼっさりでした）。

そして、昨日電話がかかってきたゼミ生は、無事に先生と合流できたかしら……



壁のあった場所をみる先生

そんなことを考えて研究に集中しなかった罰がくだったようだ。
連絡の行き違いで調査は空振り、翌日の午後、再度訪問することに。
往復 4 時間もかかるのに……

しかし、そのおかげで予定より早くベルリンに戻った私は、ふと思い出して以前のインターン先に立ち寄ることができた。
ホーネッカーの山荘について、もしかしたら、昔の同僚がなにか知っているかも、との期待もあった。

なぜならそこは映像制作、撮影コーディネーションの会社。

日本のテレビ局、映像制作会社がドイツや欧州内で撮影する際の事前リサーチ、撮影交渉や撮影許可の取得、機材・スタッフの手配などを行っているのだ。旧東ドイツ時代の特集でホーネッカーの山荘のことを調べている可能性は大いにある。

なつかしいオフィスを訪ね、ひさしぶりにあった同僚にホーネッカーの山荘について聞いてみると、即座に情報が得られた。やはり直前に調査依頼が入ったということだ。

しかし、そこは車でないとアクセスが難しく、さらに事前予約が必要とのこと。

がっかりする私に、代わりに勧められたのが、旧東側で行われているベルリン地下ツアー。ベルリンに長く住んでいる同僚も、地下鉄の横に並行するシェルターなど、日常何気なく過ごしているエリアにこんなものがあるなんて、とびつくりしたという。

資料までプリントアウトしてもらい、一日悩んでいたことがあっさり解決。

早速その夜、先生に報告。

私は、翌日はもともとあった午前の調査と、空振りになった調査の再挑戦が午後になり終日ベルリンを離れることになる。ツアーの集合場所や、その他に行く予定の場所を地図で念入りに示して説明した。

しかし斎田君がずっと撮っていたビデオをみると、先生は私がついていなかった 2 日間で、私が案内しようと考えていたところはほとんど回られていたようだ。

さらに、よく見返すといろいろな感想も口にされていた。ここに各所の説明をあわせて、まとめて書き出しておきたい。

◆ブランデンブルク門前 3月18日広場—3月革命の碑

いわずと知れたベルリンのシンボル。東西ドイツにわかれていたときは分断の象徴、今は分断を克服した統一の象徴である。しかし立花先生は、もっと以前の歴史の象徴として注目されたようだ。門の前にある3月18日広場の掲示の前でこのように話されている。



近代市民社会の基本的なものが1948年ごろにできた、この3月18日広場はその記念碑なのです。ウンター・デン・リンデン通りも、同じ記念の意味をもっている。フランス革命が世界中に広がるのに、それだけ時間があつたということ。フランス革命が1789年だから、約半世紀以上だね。

いいかえれば、フランス革命がヨーロッパ中に広がり、ヨーロッパ中が近代市民社会になった、これがこの1948年の革命の意味。俗にいう3月革命。

さらに冷戦終結が1989年でしょ。それはフランス革命200年でもあるのですよ。

◆ホロコースト記念碑



正式名称は「殺害されたヨーロッパ・ユダヤ人のための記念碑」。およそ1万9000平方メートルの敷地に、約2,700本の墓標を思わせる石柱を配したモニュメント。アメリカの建築家アイゼンマンの設計による。2005年に完成、ブランデンブルク門や連邦議会議事堂に近いベルリン中心部にある。

◆ヒトラーの地下壕跡

ヒトラーが最後まで立てこもった場所。立て看板があるだけである。だが、その看板が設置されたのもつい最近のこと。ネオナチに聖地化されるのを恐れ、ヒトラー終焉の正確な

場所が公にされなかったためである。



◆ベルリンの壁跡

東西分断の象徴。1989年に崩壊、冷戦終結の象徴となった。現在もベルリン市内に数か所保存されている。写真はテロのトロポグラフィー脇の壁の跡。



「136人死んでいるんだよ……」ぼそっと先生はつぶやいた

◆テロのトロポグラフィー

ナチス時代にゲシュタポ・SS総本部があった建物の廃墟につくられた展示施設。戦後放置されていたが、統一前後からむき出しの地下室の壁に当時の恐怖政治の様子をパネルで展示しはじめた。現在はかなり整備が進められている。ナチスを生み出してしまった過去を直視、向き合うまでドイツ人もそれだけの時間を要したということだろう。ちなみにこの施設があるニーダーキルヒナー通りは、戦前、プリンツ・アルブレヒト通りと呼ばれていた。通りの名前がゲシュタポを強く印象付けるようになってしまったため、戦後改称されたと聞く。



◆DDR 博物館

東ドイツ時代の日常生活を垣間みることができる展示施設。東ドイツの象徴のような自家用車トラバントなど、当時の生活用品から、秘密警察、東ドイツ時代にあった社会主義統一党傘下の青年団の活動の様子などさまざまな展示がある。



◆ペルガモン博物館

ヘレニズム時代などの古代中近東、ギリシャ、およびイスラム美術の博物館。

目玉は、館内に再現した古代の祭壇（ペルガモンのゼウスの祭壇）とイシュタール門。見学者は祭壇に実際に登ったり、座ったり、写真をとることもできる。青いレンガで敷き詰められたイシュタール門を歩くと自分がヘレニズムの市場を旅しているような錯覚を起こす壮大な展示である。

祭壇およびイシュタール門などの古代遺跡は 1878 年から 1886 年にかけてドイツ人のフーマンが発掘した遺跡をドイツに運びこみ、失われた部分も補足し、綿密に組み立てあげた。ドイツ人の細かさや完璧主義が現れた博物館といえるかもしれない。

この施設は戦前から建築構想があり、ナチスがあらわれる直前 1930 年に完成した。だが博物館自体が東ベルリン側にあったため、戦後、西ベルリンに住む人はみることができなかった。自由に行き来できるようになり、博物館に多くの観光客が訪れるいまの姿は、統一の成果といえる。

*2014 年 9 月から 2019 年まで補修のため閉館



◆地下から見るベルリン (Berlin von Unten)

Berliner unterwelten e.v. という自主団体が主催するツアー。核シェルター、壁を挟んでつくったトンネル跡、などベルリンの地下に残る歴史の爪痕を回るさまざまなコースがある。英語での案内コースもあり。季節や曜日によって内容が変更になるので Web を確認のこと。

<http://berliner-unterwelten.de/>



核シェルターツアーの受付に向かう先生

その他にも、先生は抵抗運動記念館、絵画博物館を回っています。

◆ドイツ抵抗運動記念館

現在のドイツ連邦国防軍の建物内にある展示施設。政治教育分野の学習・研究施設として開放されている。

1933年から1945年にかけてのナチス支配下の抵抗運動について展示しており、困難な状況下でナチスの独裁にいかに関心や団体が立ち向かったか、そして自由をもとめて行動したかを示すことがセンターの目的となっている。

中庭は、ヒトラーへの抵抗運動に失敗した際に銃殺が行われた場所でもあり、追悼碑がある。

<http://www.gdw-berlin.de/de/>

◆絵画博物館

1998年に完成。ハンス・シャウロンが統一後を見据えて計画した文化フォーラム地区にある。

工芸博物館、銅版画収蔵室も入っており、西ドイツ時代からあったフィルハーモニー（ベルリンフィルの拠点）や国立図書館、楽器博物館と一体化している。

この絵画館も、統一のひとつの象徴といえる。

ナチズムはドイツの芸術にも大きな損失を残した。ナチスは国内のユダヤ人から多くの絵画を没収したが、若いころ画家を目指していたヒトラーの趣味にあわない作品を退廃芸術としてスイスに売却した。さらには大戦末期にルーベンスなど多数の名画が焼失している。運よく難を免れた美術品も敗戦後に戦勝国へと持ち出された。

復興が進むにつれそれらはドイツ国内に戻ったが、それぞれの占領地域へ運ばれた。つまり美術品も東西に分断されたのである。

絵画館はそれらがまとめてひとつの場所に集められた場所なのだ。つまり、統一してはじめてドイツの絵画は一堂に集められた。だから絵画館も統一の象徴といえる。

どうやら先生は、博物館が好きなようです。

なんとか2日目の晩には、私の研究調査も無事おわり、ほっとした状態に。

そして先生もベルリンの街を堪能し、核シェルターが見学できて大満足のご様子。

ゼミ生もベルリンで1名合流して旅のメンバーも増えたと、さあ夕食。

ドイツ料理にしましょうか、それともベルリンで有名なピザ屋にしましょうか、地ビールの店もありますよ。

と、コーディネーション会社の同僚から仕入れておいたレストラン情報をもとにいくつか提案してみたのですが……

そろそろ野菜が食べたい、スーパーで買って、ここ（ホテル）で食べよう
駅の中にあったよね

思えばこのあたりから、私はすべての準備が無駄になっていく虚脱感を感じ始めていたらしい……食べ物への恨みは恐ろしい、というべきか……

（実は私はベルリンの名物ピザが食べたかったのです。。）

先生はスーパーでワインを選んだり、サラダや果物などをたくさん買い込みながら

昔は、高かった。いまではユーロ100円、なんでも買える。

と、まるで過去のリベンジをするかのように、楽しそうに買い物をしている。

当時よほど悔しかったのだろうか、先生のリベンジはなかなか終わらない。

あれもこれも気になるものは欲しくなってしまうらしい。

あ、あれも食べたい

と駅の中にあるアジア風焼きそばも購入

ベルリンまで来て、焼きそば、それもあくまでアジア「風」なものを、なぜ……

ホテルの角にイタリア料理あったよね、あそこのピザを適当に。

先生……それ私が交渉してテイクアウトする、ということですか？

とちょっと嫌味っぽくいうと、

黙ってうなづく先生

なにはともあれ、調査が終わった私も、立花先生と無事に合流できたゼミ生も、希望のシェルターや展示施設が見学できた先生も、みんなごきげん。

ちょっとしたパーティーのように、先生の部屋でピザや野菜を頬張りました。



イカがそのままのっけてびっくりした海の幸のピザ